山北町立岸幼稚園

研究テーマ：遊びをとおして子ども同士のかかわりを深める

１　実践の目的

昨年度から「０歳から 15 歳までの一貫教育・保育」を推進し、めざすこども像を共有して保育・教育に取り組んでいる。

本園では、少人数の特徴を生かしながら、様々な人との関わりをとおして、豊かな心と社会性を育んでいこうと考えた。

そこで、本年度は、「異年齢」「人とのかかわり・体験」をキーワードに子どもたちの育ちを支える取り組みについて探ることとした。

２　実践の内容

（１）異年齢のかかわり

少人数だからこそ、一人ひとりの学びや育ちを園全体でじっくり見守ることができる。その反面、子ども同士のかかわりが少なく感じたため、遊びの中で異年齢のかかわりをもてるようにした。

また、３歳児、４歳児・５歳児の３人一組のグループを作り、遊びや活動の際に生かした。それにより、年長児にはリーダーシップが、年少児にとっては、憧れの存在ができるなど、お互いにとっても良い関係となった。

＜異年齢で「はないちもんめ」＞

（２）様々な人とのかかわり・心動かされる体験の充実

岸幼稚園の特色でもある地域力を生かして、幼児期にしか味わえない実体験や心動かされる体験を重ねた。その中で、陶芸体験や茶室を利用した親子初釜など、非日常体験をとおして、楽しさやわくわくする感動体験や好奇心を高め、教師と子ども双方の心豊かな体験ができた。

＜陶芸体験＞

（３）０歳から 15 歳までの一貫教育・保育

小学校との交流では、昨年度教職員間での授業参観や、情報交換、交流事業等をとおして、お互いの保育・教育の相互理解ができ「顔の見える関係」がつくれた。

今年度は、行事において、小学校と地域の外部講師の打ち合わせに園も参加し、お互いの思いやねらいを共有し交流を計画することができた。また、小学校と、教員の１日体験研修を実施した。休み時間や給食の子どもたちの様子や教師のかかわり、声かけを見ることができた。

３　実践の成果

（１）異年齢のかかわり

教職員間で異年齢の良さや必要性を話し合い、共有した。それにより、意図的、計画的な異年齢のかかわりをもたせることができた。それにより子どもたちがより相手を意識した言葉での伝え合う姿が増え、優しさや思いやり、憧れなど心の育ちにつながった。

＜椎茸の焼き方を年少児に教える年長児＞

（２）様々な人とのかかわり・心動かされる体験の充実

園から「～させたい」という思いを３園運営協議会などで発信したことで、様々な体験活動が実現し、地域とのかかわりも深まった。教師だけでなく、子どもたちも地域の人たちを知り、見かけたときには進んであいさつをしたり、積極的にかかわろうとしたりする姿もみられるようになった。

（３）０歳から 15 歳までの一貫教育・保育

昨年度の「顔の見える関係づくり」を土台に、今年度は更に交流を深めることができた。昨年度実施した、５年生との田んぼを介しての交流は、園児のどろんこ遊びと小学校の収穫祭への参加に発展させることができた。新たな交流となったが、お互いのねらいを理解し合うことで、有意義な活動となった。どろんこ遊びでは、なかなか泥に触れられないでいる幼児だったが、小学生が楽しそうに遊ぶ姿を見て、どろんこに触れ、遊びはじめることができた。収穫祭では、５年生がついた餅を、５ 年生と共に会食することができた。

様々な活動の中で人とかかわるスキルを高め、子ども同士のつながりを深めた。

＜小学校、地域、園との打合せ＞

４　今後の展開

- 小学校との連携や地域とのかかわりが深まった反面、他園との交流ができなかったため、次年度は教職員間で計画し、横のつながりを深めていきたい。
- 教職員間で異年齢の良さや、少人数保育だからこそできることを考え、語り合い、共有していきたい。
- 日々の保育を振り返る時間をもつことが難しかったため、短時間でできる共有方法を考え、保育を充実させていきたい。

＜小学生とのどろんこ遊び＞